

はじめに

商店街を取り巻く環境は、大型商業施設の進出やインターネット販売などの購買機会の多様化、さらには、少子高齢化による人口減少といった構造的要因など、厳しい状況に直面しています。

一方で、県内の高齢化が加速し、2025年には、およそ3人に1人が65歳以上の高齢者になると予測され、車の運転に不安のある高齢者が増えれば、身近な商店街で買い物ができる環境は今以上に必要になります。

また、電化製品をはじめ商品の使い方がわからない、本当に美味しい野菜や魚などを買いたい、といった時に、頼りになるのは身近な商店街や地元の商店です。

商店街は買い物を楽しむ空間だけでなく、祭りやイベントの開催、さらには、防犯、防災、高齢者・子育て支援など、まさに「地域の核」として、なくてはならない様々な役割を期待されています。

今回の「平成28年度埼玉県商店街経営実態調査報告書」では、県内商店街の実態を調査し、商店街の現状と課題を明らかにすると同時に、課題解決に向けた考察を加えています。

商店街及び関係各位におかれましても、本報告書を御活用いただき、今後の商店街活動に生かしていただければ幸いです。

県においても、商店街の活性化に向けて、商店街が自ら主体的に取り組む活動や商店の新たな取組を、引き続き、積極的に支援してまいります。

最後に、本報告書の作成に当たり御協力をいただきました県内商店街及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。